



録画を配信

荒砥高校への支援の成果をどう捉える

教育長 入学者の確保、町内企業への就職につながっている



よこやま かずひろ
横山和浩 議員

支援の成果は

問 荒砥高校の存続と発展を目指し、町ではさまざまな支援に取り組んでいる。成果や評価は。

教育長 魅力化計画に基づき支援を展開し、入学者数確保につながっていると考える。（表1参照）

習熟度別に少人数指導を行い基礎学力の底上げが図られており、さらには町独自で4人の学習支援員を配置し学力に応じた学習指導等を支えていることから、生徒には着実に学力と自信がついていると考える。

情報発信

問 町の支援について情報発信は。

教育長 高校魅力化コーナーディネーターを配置している。

高校公式サイトで学



各種取り組みは卒業後の町内企業就職にもつながっていると認識している。（表2参照）

学校と地域の連携

問 地域との交流を深める場づくりは。

教育次長 地域資源を活用した教育活動を行っており、企業訪問後も商工会や訪問企業の方々とも交流を深めている。今後も学校との協議を通じて支援策を検討したい。

ボランティア推進

問 荒砥高校ではボランティア活動で単位取得できるが、サークルや取りまとめる組織がない。支援体制は。

教育次長 教育委員会等に情報交換できる場がある。意向を確認し、状況を参考に、町としてできる支援があるか検討したい。

健康福祉課長 社会福祉協議会内のボランティアセンターで相談などを行っており、引き続き窓口となり調整等を行うと聞いている。

今後の支援

問 今後の支援策は。

町長 生徒数減少という厳しい現状があり荒砥高校の魅力化は急務。学校の存続に向けて支援を続けていくことが重要である。

現在の支援策に加え、新たな視点での施策も模索したい。

表1 志願者数（令和3年度～令和7年度）

年度	R3	R4	R5	R6	R7
人数	27	17	40	24	37

表2 卒業生の進路（令和3年度～令和6年度）

卒業生 93人	進学43人		46%
	就職 50人	町内21人	23%
		町外29人	31%

私もひとこと

きめ細やかな支援を継続してほしい。良い税金の使い方だと思う。
（50代男性）